

岩見沢市立くりさわ学舎校舎整備基本構想

令和 7 年 2 月
岩見沢市教育委員会

岩見沢市立くりさわ学舎校舎整備基本構想
目 次

第 1 章 くりさわ学舎が目指す教育

1 基本構想策定の目的	1
2 栗沢地域における教育環境	1
3 くりさわ学舎がめざす教育の姿	1
(1)めざす児童生徒像	1
(2)めざす学校像	1
(3)めざす教職員像	1
4 学びのステージ	2

第 2 章 施設整備に関する方針

1 新校舎整備に関する基本方針	3
(1)9 年間一貫した教育活動に適した施設環境の確保	3
(2)安全・安心で機能的な施設環境の確保	3
(3)地域に開かれ、地域とともにある学校としての施設環境の確保	3
2 学校規模の想定	4
(1)児童生徒数と学級数（令和 1 2 年度）	4
(2)令和 1 2 年度以降の児童生徒数	4
(3)施設整備における教室数等	4
3 開校までの想定スケジュール	4

第1章 くりさわ学舎が目指す教育

1 基本構想策定の目的

栗沢地域においては、令和7年度から栗沢小学校校舎を活用して義務教育学校を開校しますが、校舎の老朽化への対応や義務教育学校として望ましい教育環境を整えるため、早期に新校舎建設を進めることとしています。

本基本構想は、児童生徒や保護者、地域住民などの期待に応える新校舎の建設に向け、義務教育学校で目指す教育内容や校舎整備の基本的な考え方を示し、今後の基本計画の策定や設計業務に反映させることを目的としています。

2 栗沢地域における教育環境

自然豊かな栗沢地域は、住民の地域への愛着が深く、相互の信頼関係も厚いという地域性を有しており、小中学校の教育活動においても、学校運営協議会や地域学校協働本部（マロンドリーム）が、小中学校の応援団として積極的に関わっています。

また、栗沢認定こども園と小中学校において、幼小中が連携した教育活動に取り組んでおり、園児と児童生徒の交流、合同事業の実施など、0歳から15歳までの切れ目のない教育が展開されています。

3 くりさわ学舎がめざす教育の姿

(1)めざす児童生徒像

ふるさとに誇りを持ち、生涯にわたって学び続け、自らの人生をたくましく、しなやかに生きぬく児童生徒

(2)めざす学校像

- ☐ 児童生徒の主体性を大事にし、生き生きと学べる学校
- ☐ 支持的・親和的な風土が醸成された安心・安全な学校
- ☐ 児童生徒のために、地域・保護者と共に歩む学校

(3)めざす教職員像

- ☐ めざす児童生徒像の実現に向けて、主体的に学び続け、自らの資質向上に努める教職員
- ☐ 豊かな人間性をそなえ、児童生徒と向き合い、児童生徒を大事にする教職員
- ☐ 地域・保護者と共に児童生徒の育成に努める教職員

4 学びのステージ

くりさわ学舎が目指す教育の姿に基づき、義務教育学校としての教育効果を最大限に上げるため、子どもたちの心身の発達段階を踏まえ、従来の小中学校の枠組みを連続性のある3つのステージに区切り実践していくこととします。

学年	前 期 課 程						後 期 課 程		
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
ステージ	ファーストステージ				セカンドステージ			サードステージ	
	学習生活習慣確立期				主体的能力育成期			探究力鍛錬期	
指導形態	ステージ担任制 ⇒ 教科担任制				教科担任制				

【ステージごとの目指す姿】

	ファーストステージ	セカンドステージ	サードステージ
自ら学ぶ (知) 基礎・基本を理解・活用することができる	- 書く、読む、話す、計算することができる - 気づいたことを自分の言葉で表現できる - 次に学びたいことを考えることができる	- 書く、読み取る、伝える、工夫して計算することができる - 相手の考えを尊重しながら協働対話ができる - 自ら課題を見つけることができる	- 書く、読み取る、伝え合う、活用する、工夫して計算する、合理的に活用することができる - 対話をとおして考えを深めることができる - 課題解決のために探究的な学びができる
よりよく育つ (徳) 自ら進んで元気な挨拶ができる	- 自分の気持ちに気づくことができる - 自分の気持ちを自分の言葉で伝えることができる - 友達と仲良く過ごし、どんなことにも一生懸命がんばろうとする	- 他者の気持ちを想像することができる - 自分の気持ちを優しい言葉を選んで伝え合うことができる - 相手の気持ちを考え、自分の力を精一杯発揮することができる	- 自他を尊重することができる - 他者を理解し、配慮ある伝え方ができる - 自分の将来や全体のことを考え、次の目標に臨むことができる
大事に生きる (体) 基本的な生活習慣を身に付けることができる	- 早寝早起き等、生活のリズムを整えることができる - 食事のマナーを身につけ、感謝して食事をするすることができる - 進んで体を動かすことができる - 命の大切さを知り、進んで体を動かしたり、規則正しい生活を身に付けようしたりすることができる		- 自分の心身を大事にすることができる - 自分と友達・家族の心身を大事にすることができる

第2章 施設整備に関する方針

1 新校舎整備に関する基本方針

新校舎の整備においては、くりさわ学舎が目指す教育の姿や学びのステージにおける目標の実現に向けて、ファーストステージからサードステージの各ステージの活動に配慮した校舎整備を目指すとともに、次の3つのコンセプトに基づくこととします。

- 9年間一貫した教育活動に適した施設環境の確保
- 安全・安心で機能的な施設環境の確保
- 地域に開かれ、地域とともにある学校としての施設環境の確保

(1) 9年間一貫した教育活動に適した施設環境の確保

- 9年間一貫の系統的な教育課程に対応した施設環境、学年段階の区切りに対応した施設機能、異学年交流スペースの確保など、9年間の系統性・連続性のある教育活動を効果的に実施できる施設整備を目指します。
- 一貫教育を受ける9年間は身体や学習面だけでなく、社会性や行動範囲等あらゆる面で大きく成長する時期であるため、児童生徒が学年段階のステージ進行に伴って、自らの成長を実感できる施設整備を目指します。

(2) 安全・安心で機能的な施設環境の確保

- 児童生徒が9年間同一の施設を利用することから、児童生徒の発達段階や体格差にも配慮し、安全性を備えた施設整備を目指します。
- 校内の採光、通風、換気等を十分勘案し、児童生徒の健康・保健衛生に配慮した施設整備を目指します。

(3) 地域に開かれ、地域とともにある学校としての施設環境の確保

- 学校施設が地域と連携、協働した生涯教育の基盤となるよう、学校、保護者、地域住民等の参画を得ながら総合的に計画を進めます。
- 学校施設が地域の活動場所やコミュニティの拠点となるよう、新校舎に来夢21の図書館機能・児童館機能を複合化することを検討するとともに、最適な建設場所の選定を行い、児童生徒と地域住民が有効に共同利用できる施設整備を目指します。

2 学校規模の想定

(1)児童生徒数と学級数（令和１２年度）

新校舎の整備については、令和１２年度の供用開始を目指して取り組みますが、各学年の児童生徒数は以下を予測しており、文部科学省の基準をあてはめると、各学年１学級となります。

		前期課程						後期課程			
学年		１年	２年	３年	４年	５年	６年	７年	８年	９年	合計
R12年度	児童数 生徒数	10	18	11	9	11	15	15	12	18	119
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9

(2)令和１２年度以降の児童生徒数

令和１２年度以降も緩やかな児童生徒数の減少が予測されており、このまま推移した場合には、令和１６年度に前期課程で複式学級となる学年が生じることが見込まれています。

	年度	R6	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22
前期	児童数	95	74	72	70	68	66	66	65	64	63	62	61
	学級数	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	6	5
後期	生徒数	58	45	42	41	35	31	38	39	38	38	38	38
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(3)施設整備における教室数等

上記(1)と(2)を踏まえて、施設整備における普通教室数は各学年１学級の９教室と想定し、将来的な複式学級にも対応できるよう整備します。

また、特別支援学級については、支援が必要な児童生徒数により決定されますが、現時点で小学校２学級、中学校２学級であることを勘案し、学校全体で４教室を想定した検討を進めます。

そのほか、特別教室、多目的教室、共通・共用部、管理系施設、屋内運動施設、屋外施設等についても、必要となる機能や規模を十分に検討し、学びやすく機能的な施設整備を目指します。

3 開校までの想定スケジュール

R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
基本構想	基本計画 ・設備や機能の検討 ・必要面積の検討 ・建設場所の検討	基本設計	実施設計	建設工事		供用開始 グラウンド整備